

IR University

第10回 「資本市場とIR シンポジウム」のご案内

～ 「新しいIROの役割とは－企業の成長にどう貢献するか ～

ご挨拶

毎年、重要なテーマに注力しながら、問題提起をしております当シンポジウムですが、本年は、コロナ禍をきっかけに、さまざまな変化への対応をより具体的にディスカッションをしていく場にしたいと考えております。また、それに伴ったIRO(IRオフィサー)や、取締役会、その事務局など、各職務に期待されることの変化についてもディスカッションして参ります。

今回、シンポジウムは、従来の対面式での開催ではなくなりますが、この半年の間、すっかり定着したオンラインミーティング形式で、時間も短く、また、皆様も参加しやすい雰囲気を作りながらの展開を目指したいと思います。講師陣は、企業の皆様と日々実務をご一緒しております弊社先鋭チームを中心に、また、最後は、例年同様、登壇者による大討論会で締めくくる予定です。本年は、この討論会にはエーザイの社外取締役でもいらっしゃる明治大学の三和裕美子先生にもご参加いただきます。

当シンポジウムはこれまで青山学院大学名誉教授の北川先生監修のもと9回開催しましたが、本年より青山学院大学の伊藤晴祥准教授監修のもと開催をすることとなりました。是非とも、多くの皆様にご参加いただきたく存じます。

ジェイ・ユーラス・アイアール(株) 代表取締役 岩田宜子

開催趣旨

以下のようなテーマのもと、企業・投資家双方の立場で議論を深めます。

- ・ 新常態におけるIROの役割の変化
- ・ 経営および取締役会との関わり
- ・ 今後、何をアピールしたらよいか(成長戦略、経営、取締役会評価、ESG) など

開催概要

日時：2020年11月30日(月) 15:00 - 17:45

形式：WEB(Webex)

参加費用：弊社と現在お取引のある企業様 無料
弊社よりフラッシュニュースを配信している企業様 一人 3,000円(税別)
その他企業様 一人 5,000円(税別)

お申込み方法

お申込み：右のボタンをクリックして、お申し込みください。
折り返し、詳細のご案内を致します。

参加申し込みボタン

締め切り：2020年11月25日(水)まで

問合せ先：ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社

担当：原山・牧・川島

E-mail：ir_university@j-eurusir.com TEL：03-6273-4032(代)

スケジュール(予定)

| 時間 | 講演内容 | 登壇者 |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 15:00～15:05 | ご挨拶と本日の主旨 | 伊藤 晴祥 准教授 青山学院大学 岩田 宜子 ジェイ・ユール・アイアール |
| 15:05～15:20 | 近未来のIRO | 原山 真紀 ジェイ・ユール・アイアール |
| 15:20～15:35 | 何をアピールしたらよいか① (取締役会評価と投資家へのメッセージ) | 高山 与志子 宮地 真紀子 ジェイ・ユール・アイアール |
| 15:35～15:50 | 何をアピールしたらよいか② (ガバナンスコード、ESG と IR の立ち位置) | 鈴木 紀子 ジェイ・ユール・アイアール |
| 15:50～15:55 | 休憩 | |
| 15:55～16:25 | 経営・取締役会が期待する資本市場との対話 | 浦野 光人氏 ニチレイ元代表取締役社長 HOYA 社外取締役等 複数現任 |
| 16:25～16:55 | 会社の目的を巡る欧州・米国の動向 | 林 順一氏 青山学院大特別研究員 |
| 16:55～17:00 | 休憩 | |
| 17:00～17:15 | グループディスカッション (本日のセッションからの質問点、疑問点などグループに分けフリーディスカッション) | |
| 17:15～17:45 | 大討論会 :グループディスカッションの内容の発表、特に、新しいIRO像、および経営、取締役会、取締役会事務局は、この変革にどう立ち向かったらよいか、ESG のメッセージ内容は、など ※総合ファシリテーター:岩田 | 浦野氏、林氏、三和教授、高山 |

<ご参考> 過去4回のIR University 「IRと資本市場シンポジウム」のテーマ

第9回:ESG イニシアティブ争いの中で日本企業が今なすべきことーガバナンス概念の拡張

第8回:ESG 今、何が起きているのか、IR担当者が出来ることは

第7回:建設的な「対話」の新たなスタンダードとは

第6回:ESとガバナンス、IRとの融合(コンバージェンス)に向けて

伊藤 晴祥 准教授 青山学院大学

2004年青山学院大学国際政治経済学部卒業、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学、ハワイ大学シャイドラ経営大学院金融工学修士課程修了、同国際経営学博士課程修了。博士(国際経営学)、博士(政策・メディア)。国際大学講師、同准教授、イトックス株式会社代表取締役(現職)を経て、現在は青山学院大学大学院国際経営学研究科准教授。金融SDGs研究会理事、リアルオプション学会総務理事(2017年～)、ISOTC207(環境マネジメント)エキスパート(2020年～)、ISO TC322(サステナブルファイナンス)エキスパート(2019年～)。

主な論文:SDGs債の価格形成に関する分析と投資に際しての留意点—世界銀行のSDGs債とEnel社のGeneral Purpose SDGs Linked Bondsの事例分析—、証券アナリストジャーナル 57(2),16-28頁などSDGs、ファイナンス、リスクマネジメントに関する論文多数。

浦野 光人 社外取締役 HOYA株式会社
社外取締役 株式会社りそなホールディングス
社外取締役 株式会社日立物流
有限責任あずさ監査法人公益監視委員会委員

1971年日本冷蔵株式会社(現在の株式会社ニチレイ)入社、2001年代表取締役社長、2007年代表取締役会長就任後、2018年に同社相談役を退任。株式会社りそなホールディングス社外取締役(2013年～)、HOYA株式会社社外取締役(2013年～)、株式会社日立物流社外取締役(2014年～)、有限責任あずさ監査法人公益監視委員会委員(2016年～)。中央教育審議会委員(2009年～2015年)、文部科学省 政策評価に関する有識者会議(委員 2013年～2017年、座長 2017年～)、規制改革会議委員(2013年～2016年)、人事院 交流審査会委員(2007年～2018年)。公益社団法人経済同友会(幹事 2001年～2018年、副代表幹事 2005年～2009年)、公益財団法人産業教育振興中央会(理事長 2007年～2013年、会長 2015年～)、一般社団法人日本経営協会会長(2013年～2019年)。

林 順一 青山学院大特別研究員

1982年慶應義塾大学商学部卒業、英国マンチェスター大学経営大学院修了、筑波大学大学院修士課程修了、青山学院大学大学院博士課程修了。MBA、修士(法学)、博士(経営管理)。第一勧業銀行(現みずほ銀行)、みずほフィナンシャルグループ、みずほ証券などを経て、現在資産運用会社に勤務。

主な著作:『スチュワードシップとコーポレートガバナンス』(共著、東洋経済新報社、2015年)、『ガバナンス革命の新たなロードマップ』(共著、東宝経済新報社、2017年)、『バックキャスト思考とSDGs/ESG投資』(共著、同文館出版、2019年)

三和 裕美子 明治大学商学部 教授
社外取締役 エーザイ株式会社

大阪市立大学大学院にて博士(商学)、2005年、明治大学商学部教授、現在に至る。ミシガン大学客員教授(2006年～2008年)。エーザイ株式会社社外取締役(2020年～)

主な著作:『機関投資家の発展とコーポレート・ガバナンス』(日本評論社、1996年)、『アメリカ型企業ガバナンスの国際化』(共著、渋谷博史他編、東京大学出版会、2002年)、Corporate Governance in Japan(共著、シュプリンガフェアラーク東京、2006年)。『東アジアとアセアン諸国のコーポレート・ガバナンス』(編著、税務経理協会、2016年)。『現代経営学の基本問題』(共著、中央経済社、2020年)

岩田 宜子 ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社 代表取締役

米系銀行勤務後1992年よりIR業界でのキャリアを開始、1994年米国IR会社日本代表、その後、日系初のグローバル・IRコンサルティング会社、ジェイ・ユーラス・アイアール(株)を設立し、2001年代表取締役に就任。東証上場会社表彰選定委員や経産省対内直接投資研究会委員を経験。日本IR学会理事。2016年IRとガバナンスの分野で博士号(経済)を取得。

高山 与志子 ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社 マネージング・ディレクター 取締役
ボードルーム・レビュー・ジャパン株式会社 代表取締役

1987年、メリルリンチ証券投資銀行部門NYに入社。国内外での資金調達、M&Aなどのアドバイス。トムソン・ファイナンシャル・インベスター・リレーションズを経て、2001年、ジェイ・ユーラス・アイアール(株)。2015年、ボードルーム・レビュー・ジャパン(株)代表取締役。現在「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」メンバー。